

(5) 東浦町立生路小学校

ア 研究の経過

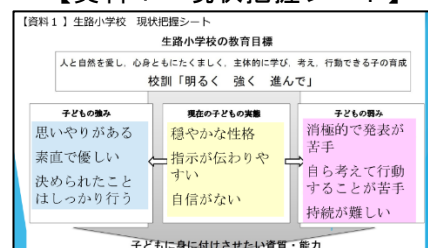
月日	活動内容
6月12日	第1回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター 研究の概要，研究方針の説明 東浦地区研究協力校代表委員と情報交換及び方向性についての共通理解
8月17日	カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究の趣旨及び，カリキュラム・マネジメント検討用シートの記入方法についての説明
8月21日	カリキュラム・マネジメント検討用シートの提出
9月4日	教務主任・現職研究主任で分析，校長に報告
9月8日	第2回研究協力校連絡会（東浦地区） 会場：東浦町立東浦中学校 資質・能力の育成に向けた取組についての協議，授業参観，校内見学
9月30日	学校訪問（身に付けさせたい資質・能力を意識した授業公開）※全学級公開授業
10月	現職公開授業（低・中・高学年部会ごとに）
11月2日	第3回研究協力校連絡会（東浦地区） 会場：県立東浦高等学校 各校の資質・能力の育成に向けた実践についての協議，発表会資料の検討
11月20日	第4回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター 発表会に向けてのリハーサル，本年度の研究のまとめについて（研究紀要）
11月27日	第60回総合教育センター研究発表会（中間報告）
1月	生路小学校改善のための課題についてのアンケート実施
2月16日	第5回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター 本年度の研究のまとめと次年度への取組について
3月末日	グランドデザイン策定

イ 過程で見えてきたこと

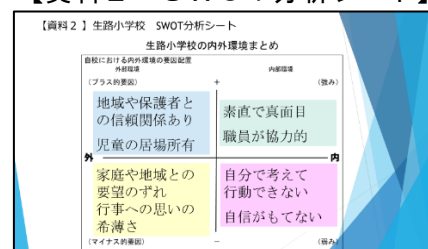
教育目標の共有を図るグランドデザインの策定に向けて，先行研究の各種シートやアンケートを用いて取り組んだ。現状把握シート（資料1）から，子どもの強みとして，「思いやりがある」「素直で優しい」「決められたことはしっかり行う」，弱みとして，「消極的で発表が苦手」「自ら考えて行動することが苦手」「持続が難しい」などが挙げられた。そこで，子どもに身に付けさせたい資質・能力を，「目的意識をもち，なりたい自分に向かって，自ら行動する力」「人の考えを聞き，意見を言ったり，自分の考えを再構築したりする力」「状況に応じて，新たなことを発案する力」の三つとした。

次に行ったSWOT分析シート（資料2）からは，素直で真面目な子どもが多く，地域・保護者との信頼関係があり，子どもの居場所がある反面，幼くて消極的であること，地域との意識のずれや行事への思いが希薄になることなどが見えてきた。さらに，教職員の意識を調べるために，カリキュラム・マネジメント検討用シートで分析した。その結果，どの項目にも，おおむね半数の教員ができていると答えた。また，「教職員同士の連携が十分にとれている」「児童に身に付けさせたい力や，目指す児童像が比較的明確である」「授業実践での効果を重視している」「地域との連携の実践を意識して取り入れることで，学校目標や重点目標に反映しようとしている」の四つの項目の評価が高かった。

【資料1 現状把握シート】



【資料2 SWOT分析シート】



ウ 「社会に開かれた教育課程」を実現するための、資質・能力を意識した実践

学校目標（目指す児童像）の共通理解を図るための授業改善を行った。特に「身に付けさせたい資質・能力に近づけるために、教師が意識し、工夫することは何か」「現在起きている今日的課題を踏まえ、地域との連携や子どもの学びを保障するためにどのような授業をしていくべきか」という課題を設定し、実践を重ねた。

まず、今までの本校の研究のレガシーを有効に使うことにした。本校ではユニバーサルデザインや背面黑板の掲示の工夫を全学級で取り組み、授業に関する学習スタンダードを守り、担任の思いが詰まった掲示を子どもたちが意識的に見ることにより、身に付けさせたい資質・能力に近づけるようという願いがこもっている（写真1）。

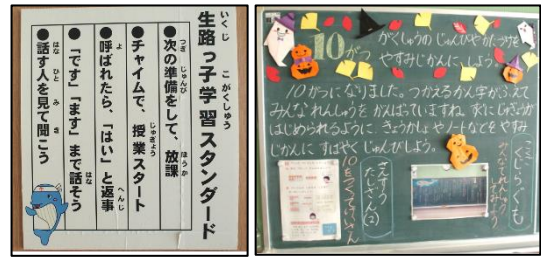
次に、指導案に単元レベルでの身に付けさせたい資質・能力を「指導の力点」として明記し（資料3）、教師がその資質・能力をより意識しながら授業を組み立てていくようにした。6年生の社会科「武士による政治の安定」の授業では、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を、「江戸幕府の政策を知り、資料から歴史的事象を読み取ることや、多面的・多角的な見方・考え方を養うことである。そのために、本時では、幕府が参勤交代をさせた理由を考える場面において、関連する資料を3種類用意したり、児童の意見を全体に共有する機会を設けたりするようにした」と記述した。

地域との連携や子どもの学びを保障するための授業として、いくつかの実践を紹介する。4年生の総合的な学習の時間では東浦防災リーダーの方と連携して、年間を通して防災学習に取り組んだ（写真2）。今年度は新型コロナウイルス感染症対策をしながら、野外での活動を中心に行った。地域の防災標識や施設に目を向けることで地域の一員としての自覚をもつことや、避難所体験を通して、地域の防災対策を身近なこととして捉えることをねらいとして実践した。1年生の生活科では、学校からほど近い東浦高校でどんぐり拾いをさせていただいた（写真3）。生活科の授業に業に生かす工夫だけでなく、小学生と高校生のつながりを深めるきっかけとして考えた活動である。

エ 成果と今後に向けての見通し

成果は、検討シートの結果から、教員間での意識の共有や連携ができたことと、身に付けさせたい資質・能力に対しての認識を、普段の学級掲示や指導案などでより高めることができたことである。

今後は、グランドデザインを早期に作成し、地域社会と関わりながら教育課程全体で組織的に子どもを育てることを計画し、学校目標と身に付けさせたい資質・能力とを関連付けた更なる授業改善をしていきたい。また、今までの地域との関わりを生かし、小中高の連携の在り方を探るとともに、地域社会に開かれた教育活動をさらに深めていきたい。



【写真1 ユニバーサルデザイン・背面黑板の活用】

【資料3 指導案（指導の力点表記部分）】

45	・江戸幕府は、どのような政治を行ったのだろう。	触れ、次時に興味を持たせる。 ・単元全体の目標を示し、次時からは、江戸時代の政治について学習することを伝える。
4	本時の目標が達成された姿（学習プリントの記述、発表の様子） ○幕府が参勤交代を行った理由を資料から読み取り、幕府が大名を支配しようと意図して行ったということに触れ、自分の意見を書いている。	
5	指導の力点（手立て③ 多様な情報を対話や資料から収集する力） 単元を通して身に付けさせたい資質・能力は、江戸幕府の政策を知り、資料から歴史的事象を読み取ることや、多面的・多角的な見方・考え方を養うことである。そのために、本時では、幕府が参勤交代をさせた理由を考える場面において、関連する資料を3種類用意したり、児童の意見を黒板を使って全体に共有する機会を設けたりするようにした。	



【写真2 4年総合的な学習の時間】



【写真3 東浦高校でのどんぐり拾い】